

文化サロン報告

文化サロンは、11月を持ちまして無事に1周年を迎える事が出来ました。まだまだこれからも、皆様から教えて頂く事が多いかと存じます。参加する方も、もっと集めなければなりません。書道、カラオケ、麻雀、短歌、そして読書会とバラエティーに富んでいます。

11月の読書会

11月で取り上げられた本は、4冊。柳田邦男著「犠牲」は、自分の息子を自死させてしまった柳田が脳死とは何かを徹底的に問い詰めて書いた心打たれる作品。また額田王のロマンスを扱った田辺聖子の「文車日記」の『額田女王の恋』と、中大兄皇子と大海人皇子の関係を扱った井沢元彦の小説「隠された帝」は、学校で習う歴史とは別の見方をした歴史を披露し、興味深い。メルボルン在住の海老原順子の自伝「メルボルンの正夢」は、読みやすく、読後感がさわやか。

今回は、読書会と書道教室からのご報告を紹介致します。読書会では、読んだ本をお互いに紹介しています。又読んだ本を貸し借りしたりして、感想を述べ合い交流を深めています。

12月の読書会

12月で推薦された本は、2冊。高橋利樹著「京の花街『輪違屋』物語 PHP新書 2007年出版。京都島原は日本で一番古い廓。そこにたった一軒残って、昔ながらのお茶屋営業を続けているのが『輪違屋』(2007年現在)。幼少の頃から廓の伝統に浸って育てられた十代目当主が、いまやわずかに歌舞伎の舞台を通じてしか思ふことができない独特な京文化を、生き生きと伝えてくれる。中野不二男著「カウラの突撃ラッパ: 零戦パイロットはなぜ死んだか」は、第二次世界大戦中ニューサウスウェールズ州のカウラに收容された日本人捕虜の起こした暴動取材した日本ノンフィクション賞を受賞した作品。

久保田満里子、ウッド美保子 記

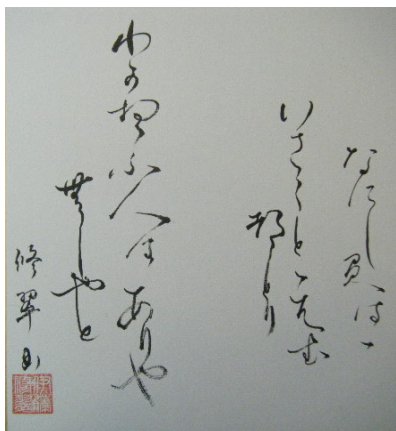
書道クラス

2013年のJCV文化サロン書道教室は4月22日(月曜日)から始まります。毎月第一と第四月曜日、午後4時から6時までです。ご自分の好きな和歌(うた)と「書」を楽しんでください。

アフタースクールの書道教室

お子様方を対象とした書道クラスも2013年4月から始まります。毎月第四月曜日の4時15分から5時までです。「書」を通して日本の心に触れてみませんか。お問い合わせはJCV文化サロン担当デービス啓子(電話: 9570-9406)までお願いします。

ロウ弘子 記



名にし負はば いざこと問はむ 都鳥
わが想ふ人は ありやなしやと
在原業平 「伊勢物語」より
伊藤修翠 書



人はいざ 心もしらずふるさとは
花ぞむかしの香に にほひける
紀貫之 「小倉百人一首」より
新ヶ江英子 書

